小学校・道徳の内容項目の解説

# 友情

## ●小学校学習指導要領（平成20年３月）

| ２　主として他の人とのかかわりに関すること | | 〔一般的な呼称例〕 |
|---|---|---|
| 低学年 | (3) 友達と仲よくし，助け合う。 | 友情 |
| 中学年 | (3) 友達と互いに理解し，信頼し，助け合う。 | 信頼友情 |
| 高学年 | (3) 互いに信頼し，学び合って友情を深め，男女仲よく協力し助け合う。 | 信頼友情・男女協力 |

## ●解説

| | |
|---|---|
| 関連の説　明 | 友達関係において基本とすべき精神を述べたものであり，友達との間に信頼と友情及び助け合いの精神をもった児童を育てようとする内容項目である。主に，第３・４学年の２の(3)及び第５・６学年の２の(3)と深くかかわっている。 |
| 全体的な理解 | 友達は家族以外で特にかかわりを深くもつ存在であり，遊び仲間などとして影響し合いながら生活をしている。また，世代が同じ者同士として，似た体験や共通の話題，互いの考え方などを交え，豊かに生きるための大切な存在として，成長とともにその影響力を拡大させていく。このようなよい友達関係を築くには，互いを認め合い，学習活動や生活の様々な場面を通して理解し合い，協力し，助け合い，信頼感や友情をはぐくんでいくことが大切である。 |
| 低学年 | この段階においては，幼児期の自己中心性がまだ残り，友達の立場を理解したり自分と異なる考えを受け入れたりすることは難しいことも多い。しかし，学級の生活を共にしながら仲よく遊んだり，困っている友達のことを心配し助け合ったりする経験を積み重ね，友達のよさをより強く感じるようになる。このことを踏まえ，特に身近にいる友達と仲よく活動し，助け合うことの大切さを実感できるようにすることが重要である。 |
| 中学年 | この段階においては,気の合う友達同士で仲間をつくって自分たちの世界を確保し，楽しもうとする傾向があり,集団での活動などがこれまでになく盛んになる。しかし，自分の利害に基づく衝突が強くなることも見られる。このような特性から，この段階においては，健康的な仲間集団を積極的に育成していくことが大切であり，友達のことを互いによく理解し，信頼し，助け合うことを中心として指導する必要がある。 |
| 高学年 | この段階においては，これまで以上に友達を意識し，仲のよい友達との絆（きずな）を深めていき，若者の流行などにも敏感になり，趣味や嗜好を同じくする閉鎖的な仲間集団を作る傾向も生まれてくる。そのため，疎外感を感じたり，友達との間で悩んだりすることが今まで以上に見られるようになり，健全な友達関係を育てていくことが一層重要になる。友達同士の相互の信頼の下に，協力して学び合う活動を通して互いに磨き合い，高め合うような，真の友情を育てていくことが強く求められる。<br>また，特にこの段階は，第二次性徴期に入るため，心身の発達には個人差があるものの，異性に対する関心が強まり，これまでとは異なった感情を抱くようになる。このことは自然な成長の姿である。それとともに，この男女間の在り方も根本的には同性間におけるものと同様，互いの人格の尊重を基盤としている。異性に対しても，信頼を基にして，正しい理解と友情を育て，協力して助け合おうとすることに配慮して指導することが大切である。 |

文部科学省「小学校学習指導要領解説・道徳編」（平成20年８月）より

## ■参考：中学校学習指導要領（平成20年３月）

| ２　主として他の人とのかかわりに関すること | 〔一般的な呼称例〕 |
|---|---|
| (3) 友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち，互いに励まし合い，高め合う。 | 信頼・友情 |
| (4) 男女は，互いに異性についての正しい理解を深め，相手の人格を尊重する。 | 異性の理解 |